

令和7年9月8日

保護者の皆様へ

藤井寺市立第三中学校
校長 奥 雅 美

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

仲秋の候、保護者の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また平素は、本校教育活動にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本年4月17日(木)に3年生で実施されました「全国学力・学習状況調査」の結果概要についてお知らせします。

1. 学力面について

問題形式別にみると、選択式、短答式、記述式問題とも無解答率が0.0%の問題がありません。また大阪府や全国と比較して無解答率が低くなっている問題もありません。特に、記述式問題の無解答率が高いです。短答式や記述式問題は、単に知識を暗記するだけでなく、問題文を正確に理解し、自分の考えを論理的に組み立て、それを適切な言葉で表現する能力が必要となります。この一連の過程に慣れていない生徒は、何を書けばよいか分からず、無回答になってしまったのではないかと考えられるため、基礎的な内容も含め、記述で解答する練習を継続していくことが必要です。

① 国語について

国語の平均正答率は、大阪府平均・全国平均を下回っています。一方で、生徒質問紙「国語の勉強は好きですか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の肯定的意見が58.5%、(大阪府56.3%・全国57.9%)と上回っています。「国語の授業はよくわかりますか」80.1%(大阪府78.3%・全国77.0%)「国語の授業で、先生はあなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか」85.9%(大阪府76.1%・72.9%)と国語という教科や授業に関してよい印象を持っているようです。しかし、「国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか」69.6%(大阪府74.2%・74.0%)と根拠を考えることは若干低くなっています。

評価の観点別にみると「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」において大阪府・全国との差が開いています。自分の考えを論理的に整理し、文章として表現する能力に大きな課題があると考えられます。

特に、記述式の問題で顕著な差が出ており、論理的な思考や文章表現能力の向上のために、基礎知識の定着に加え、思考力や表現力を養うための授業改善に力を入れ、個別指導の強化をしていきます。知識の定着に関しては、現在行っている漢字の小テストの要領で「言葉の特徴や使い方」や「情報の扱い方」に関する基礎知識の定着をめざし、小テストやドリルを授業の冒頭や終末に定期的実施することを検討します。思考力を鍛える授業の一つとして長文を読み、主要なポイントを短くまとめる「要約」の練習が効果的です。また自分で考えたものをアウトプットする授業も取り入れていきたいと考えています。

② 数学について

数学の平均正答率は、大阪府平均・全国平均を下回っています。数と式「数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる」問題と、知識・技能問題の正答率50.9%(大阪府52.0・全国51.9)と僅差です。しかし、この問題以外は大きな差があります。まずは数学的技能の基本を養い、基礎力を定着させることが必要です。

生徒質問紙より「数学の勉強は好きですか」34.5%(大阪府53.1% 全国53.8%)「数学の勉強は得意ですか」31.0%(大阪府47.9%・全国46.0%)と大きく下回っている。数学の学習に対して苦手意識のある生徒が多いようです。

「数学の授業の内容はよく分かりますか」58.5%(大阪府74.8%・全国70.3%)、「文字式を用い

た説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか」50.3%（大阪府66.8%・全国67.1%）と授業理解度が低いために、数学の学習意欲に影響するという悪循環になっていることが考えられます。また数学で表現されている説明文章への苦手意識が大きいようです。

2年生の1・2学期の授業を通して課題を出したときに未提出である生徒が多く、数学に関心が少ないことがわかっています。2年生の3学期には自由進度学習など、自分で授業進度を計画し学習する方法を試してみましたが、基礎知識の定着にはまだ至っていません。3年生になり、説明を少なくし基礎的な問題を発言しやすい授業を行うと、数学を苦手とする生徒が楽しんで授業をするようになっていきます。このことから、授業の内容も対話的な授業を行うための基礎知識の確認を丁寧にし、単元の中で自分の習熟度がわかるように細かくテストをしていくことが必要であり、基礎の定着を確認しながら繰り返し練習するように授業を行っていききたいと思います。

③ 理科について

理科の平均正答率は、大阪府平均・全国平均を下回っています。「理科の勉強は好きですか」49.8%（大阪府59.6%・全国63.8%）「理科の勉強は得意ですか」57.3%（大阪府49.3%・50.7%）「理科の授業の内容はよく分かりますか」72.5%（大阪府72.1%・71.4%）「理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか」80.1%（大阪府73.7%・全国85.8%）。理科そのものが好きではない回答が多くなっているにも関わらず、授業への回答は前向きです。「理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか」46.2%（大阪府48.8%・全国50.7%）と授業で獲得した考え方を生活と結びつけるところまでは至っていません。

正答率が高いものは地層の様子を見て、その場所で水がどのようにふるまうかを考察する問い（本校38.0（大阪府33.5・全国36.2））です。授業の中で岩石等の粒子について学習した際、本校のグラウンドの例を用いて「粘土質で水はけが悪い」という話をしており、クラブ活動の際なども意識している生徒が一定数いるため、この結果になったと思われます。活きた知識が身につけている好例と言えます。

入学当初より、できるだけ体験や経験を通じて、活きた知識として身につけさせたいという方針で、継続して取り組んできました。実際の授業の場面を振り返ると、学習時点では興味をもって取り組んでおり、その学習時期付近のテストや課題では力を発揮できている生徒が多い傾向があります。そのため、いったん獲得した知識や、その学習時にしていた考察を、定着させる活動を重視していきたいと思います。その際には、生徒同士での教え合いも活用していきます。

また、年度当初から復習小テストを行っています。今後、それに加えて復習の機会をこまめに持っています。本校に限らず、非常に簡単な知識問題の正答率が低くなっています。教科や校種問わず、基礎的な知識を覚える訓練も量的に必要なではないかと考えています。

2. 生活面や学習状況について（生徒質問紙から）【数値は%】

①家庭生活に関わる項目

質問事項	本校	昨年比	大阪府	全国
朝食を毎日食べていますか	83.6	-0.1	88.9	91.2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	82.5	+7.8	80.2	81.0
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.2	+3.0	91.8	92.6

☆家庭生活のひとつの大切な目安と考えられる朝食の「喫食率」＝「朝食を毎日たべること」。僅かではあるが3年連続で下がっています。大阪府や全国の数値はほぼ変わっていないことから、引き続き本校の課題のひとつとみることができそうです。朝食を摂ることから一日を始める生活習慣はとても大切なことですので、是非ご家庭でのご協力をお願いいたします。

☆就寝時間については大阪府や全国の数値はほぼ変わっていませんが、本校の生徒の数値は改善しています。「規則正しい生活習慣」について集会で呼びかけたり、PTA人権啓発講座として睡眠の大切さ、睡眠やスマートフォンが脳に与える影響についての講演を夏休みにオンデマンドで保護者へ提供したりしました。生徒も1学期末に視聴し、夏休みを迎えていると思います。このような地道な啓発を継続していきたいと思っています。

②家庭学習に関わる項目

質問事項	本校	昨 年 比	大阪府	全 国
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	I H以上 55.6 全くない17.5	I H以上 +4.4 全くない-1.6	I H以上 62.3 全くない11.5	I H以上 61.6 全くない7.7
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	I H以上 42.7 全くない33.9	I H以上 +4.5 全くない+5.2	I H以上 48.3 全くない24.3	I H以上 57.9 全くない15.4
学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか (オンライン授業の場合も含む)	教わって いない 38.6		教わって いない 31.9	教わって いない 40.2

☆本校の課題のひとつは日常の学習ができていないことにあります。今年度は平日については改善されているものの、休日では家庭学習する生徒の割合も、全くない生徒の割合も増えています。要するに家庭学習時間の二極化が進んでいるようです。今年度、3年生には学年開き初日に進路学習を実施しました。日々の声掛けで、学習時間を組み込んだ生活が日常となるように習慣化していきたいと思います。また放課後自習室やゆめ教室も活用していただければと思います。

③学校生活・自分に関わる項目

質問事項	本校	昨 年 比	大阪府	全 国
自分にはよいところがあると思いますか	80.1	+0.9	84.0	86.2
将来の夢や目標を持っていますか	61.4	+4.1	65.0	67.5
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	91.3	-5.9	95.1	95.9
学校に行くのは楽しいと思いますか	81.9	-4.0	84.3	86.1
友だち関係に満足していますか	91.2	-1.5	90.5	91.4
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがありますか	93.5	+0.3	90.8	91.6

☆昨年度より調査項目となった「友だち関係に満足していますか」は昨年度より数値が下がったものの大阪府より上回っています。同じく「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがありますか」の項目については全国平均を充分上回り、昨年度よりも上がりました。友達関係に満足している数値は悪くはないにも関わらず、「学校に行くのは楽しいと思いますか」について高い数値が出ていないことは、学習面での苦手意識に起因していることが考えられます。卒業後直近の進路だけでなく、「将来の夢や目標」も含めたキャリア教育を学年毎に積み上げていきたいと思っています。

☆「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、昨年度は大きく回復しましたが、今年度は低くなっています。これは大きな課題です。学校でも普段の生活で「いじめ」言動に対する瞬時の指摘が重要です。大人が毅然と発信し続け、それを浸透させ、指導だけで終えることなく人権感覚を尊重した傾聴の姿勢も兼ねながら寄り添った指導を積み重ねていきたいと考えています。

☆「ポジティブ行動支援」の取り組みは、今年で4年目に入りました。「Good Job カード」の効果が大きく出てきていると感じます。週末には1週間を振り返りながら友達のよい面を意識し、アウトプットする「Good Job カード」が定着しており、自分が人の役に立っていること（自己有用感）を実感する機会となり、自己肯定感の向上につながっていると考えられます。

④授業に関わる項目

質問事項	本校	昨 年 比	大阪府	全 国
1, 2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	54.4	-4.6	63.7	63.0
1, 2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	78.9	+13.2	76.6	77.7
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	70.2	+3.1	81.7	84.7
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	69.6	-1.7	74.0	73.4
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか	73.7	+11.2	74.5	74.8
総合的な学習の時間では、自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	70.7	-0.6	73.4	79.5
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	80.7	-11.4	89.2	91.5

☆今年度、「課題解決に向けた主体性」は大きく伸び、全国、府平均を上回っています。「授業で学んだことを実生活に結びつけたり、生かしたりしている」と考える生徒の割合も大きく伸びました。一方で、「道徳の時間に考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動」が大きく減少していることが課題です。いじめに対する意識の低下も併せ、人権感覚を醸成するような取り組みも含めて、「特別の教科道徳」の授業改善を進めてまいります。

☆本校は今年度の学力向上テーマとして「非認知能力の育成」を掲げて2年目になります。今年度の研究テーマは“三中 Vision”を軸にした教育実践～非認知能力を軸に～としており、昨年度末に、全教職員による研修を実施し、本校が課題とする非認知能力に関わる3領域を以下のような三中 Vision 行動指標としてまとめました。

①「自分と向き合う力」⇒GRIT(やりぬく力)

②「自分を高める力」⇒向上心

③「他者とつながる力」⇒コミュニケーション

現在、これらを授業でも意識し、各授業のめあてとともに、「この授業でつきたい力」として生徒に意識させるようにしています。具体的指標をもとに、伸ばしたい非認知能力を意識し、認知能力との両輪で授業改善を図ってまいります。

3. 最後に

全国学力・学習状況調査は毎回中学3年生を対象とし、同じ子どもたちの経年変化を現すものではないため、単純に前回の結果との比較はできません。ただし、その結果は、本校の取り組みを検証し、取り組み等の改善を図る一つの目安となると考えています。

本校の学力調査の平均正答率は全国・府に比べて低いですが、幸福度や友達関係に関して高い数値が出ています。主体性も伸びています。日々の学校生活を充実させ、非認知能力と認知能力の両輪で生徒の力を高めていきたいと思ひます。また、上記の分析結果を生徒・保護者・教職員そして地域の皆さまと共有することで、多方面からアプローチできればと思ひます。

さらに、子どもたちの学力向上や健やかな成長には、基本的な生活習慣の確立は欠かせません。学校と家庭が連携を図り、子どもたちと向き合い、子どもが話せる環境をつくるのが何よりも大切です。様々な経験を通して自分に自信を持ち、生活を楽しむことができるように、取り組んでいきたいと思ひます。今後とも、皆様のご理解・ご協力のほどよろしくお願ひいたします。